

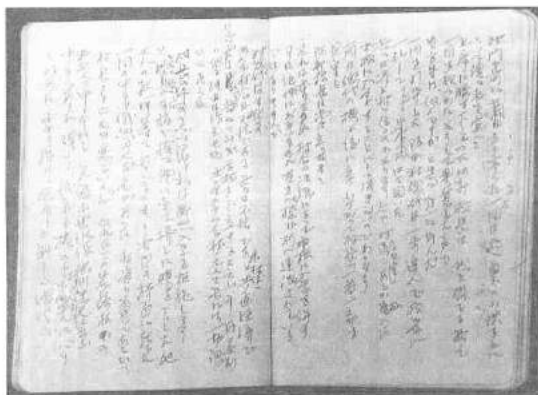
阪本清一郎 備忘録(6)

そうして興奮した声で貴方等は何んですか、と先づ第一に叫んだ。一同を引率した阪本村惣代は、一歩進んで校長に一礼してインギンに答へた口を開いた。吾々は掖上村の住民であります。同じ村民の児童であるが故めに本校に入学することにして頂き度いのであります。一同は惣代の横と後に立ちふさがって、校長の挙一動を見守る。阿部校長は尚ほ立ったまゝ、それはなりません、村会の決議によつて本校に入学を許す事は絶対に出来ません。貴方の高校は別に建設されているではありませんか。村惣代はすかさずあんな村会は不法である。吾々は不

信である。本村は共通経済ではないか。然るに吾々のみの学校を分立すると云う事は差別の他に理由は作立せぬ。北尋常小学校なんて吾々は一切認め居らぬ。村長の許可のない限り、私は断然入学を拒否しますと云ひはなつた校長は稍た捨て鉢になつて椅子に腰を下ろした。一同の中から俄然叫んだ者があつた。村長も糞もあるかい。村長より己れか悪るいんだ。此れはこの岩崎村の五人の中に会する短な世話役竹川忠七と云う中年であつた。続いて後から横からも校長に対して

盛んにバリし始めた。両手を揚げて懸命に制する惣代の努力は何等の効もなかつた。とにかく皆教室へ小供等を連れて来て下さいと告げた。

(次号につづく)



『備忘録』(部分)

労働局が現地を視察 in 平井地区



フィールドワークのようす



課題解決にむけ、話しあつた

平井地区で和歌山労働局の視察が3月8日、和歌山市平井地区でおこなわれ

劣悪な実態は態じから まらつた平井

た。労働局の視察は以前もあつたが、ここ数年間実施されていない。

さて、現地視察に先立ち、平井支部の池田清郎・副支部長から雑賀衆などの地域の歴史や部落解放運動、街づくりへのとりくみの説明があつた。このなかで同和対策事業や街づくり運動によつて成果を上げてきたが、就労や教育の状況からすると課題が依然として克服されていないことや地域の高齢化によつて具体的な福祉対策がまったなしの状況にあることが報告され

事前説明のあと、地域をフィールドワークした。きわめて劣悪な環境のなかを小集落事業でスタートを切つたエリアや浸水対策のための河川改修、さらには差別の象徴ともいえる火葬場の状況(部落のなかに一般地区の火葬場が3か所も存在した)を確認した。さらに、水路を使って生活道路にしていたことや地域のなかはりめぐられた路地について現状や説明があつた。また、労働局の希望によつて雑賀衆ゆかりの場所も視察をした。

労働局や宮本・書記長らと連の参加者、地域の代表を交えて話し合いをおこなつた。そのなかで、部落地名総鑑にかかわる極めて悪質な差別事件、個人情報不正取得、続発する土地調査事件など差別の実態の報告がされ、部落の劣悪な雇用実態をふまえた労働局のとりくみを要請した。中原正裕・労働局長から「視察をつうじて、地域の皆さんが課題解決にむけ長い間とりにくみをすすめてきたことを学習しました。今日、提起された差別の実態をしっかりとらふまえて、これからの具体的にとりくみをおこなつていきたい」とのべた。

その後、さまざまな状況について情報交換をし、視察を終えた。

連載 (3)

よき日のために

しかも特殊部落民蔑視の感情は、まったく空虚な歴史的伝統にすぎぬ。思慮ある普通民は、すでにこの伝統的観念を脱し得た。私は、特殊部落の人々の自立的運動と他の苦しめる人々との結合と、その上に築かる社会改造の大理想の上に、はじめてこの薄倅なる社会群の徹底的に解放せらるる「善き日」を想像しうるのである。(佐野 学)

(二)

われわれは、あらゆる思想を、それが生命の思想であつて死の思想でない限り、それが人間の活動力を増すものであるかぎり、われわれは歓迎する。われわれはそれらの思想いづれをも、斥けんとするものでもなく、かえつてそれらの思想を相結合せしめ、相融合せしめんとするものである。今日の芸術は乱脈きわまつたものである。そこになんらの秩序もなく、なんらの連絡もない。生命が一方にあるかと思えば、理智が他の一方にある。

ここには詩があるかと思えば、かしこには常識がある。そして何物も生きていない。いづれもみな、むなしく光明にあこがれている。妙な姿の怪物である。われわれはわれわれの力を協同一致させなければなら

ない。そして芸術と人心との力に統一をつくることに働かなければならない。そして、あらゆる人々を民衆劇によび集めなければならぬ。

そして各人がなんら自己を犠牲にすることなくして、そこにその人格を、たとえばある人はその実行力を、その精力を、その意志を、またある人はその理智を、その趣味を、その繊細な感覚を、そこに投じてほしい。そしてまた、かくして一つの友情的情緒となつて融合したみんなの心によつて、お互いその心をもつて、お互いその心をもつたわれわれは、ヨーロッパの各地にちらばつて、数多くの努力を結合させて、ここに民衆劇の建設を企てたいと思ふ……。

私どもはこの民衆劇国際大会の開催を促す廻状草案を借りて、その民衆芸術をよき日に、ヨーロッパの各地をわが国の各地に、民衆劇を水平社にとりかえて、貴意を得たいのであります。私どもは私どもの力を協同一致させねばなりません。そして、よき日と人心との力に統一をつくることに働かねばなりません。

(次号につづく)